
～前期末古典要点確認～

1読みを確認するべきもの

○小国寡民

- ・舟輿(しうよ・しゅうよ)

○剣舞

- ・見(まみ)ユ ・今者(いま) ・数(しばしば)項王に目(もく)シ ・若(なんぢ)
- ・謂(い)フ ・因(よ)リテ ・不者(しか)ラズンバ ・畢(を)ハル
- ・亦(また) ・前(すす)ミテ

○頭髮上指す

- ・何如(いかん) ・入(い)ル ・即(すなは)チ ・止(とど)メテ
- ・瞋(いか)ラス ・尽(ことごと)ク ・按(あん)ジテ ・踞(ひざまづ)キテ
- ・客(かく) ・夫(そ)レ ・故(ことさら)ニ ・耳(のみ)
- ・廁(かはや) ・者(は)
- ・此(か)クノ如(ごと)キニ ・是(ここ)ニ於(お)イテ

○四面楚歌

- ・数重(すうちょう)ナリ ・乃(すなは)チ ・已(すで)ニ ・則(すなは)チ ・奈何(いかん)

2意味を確認するべきもの

○小国寡民

- ・什伯之器：並の何倍もの才能、とても優れた才能
- ・重死(死を重んず)：生命を大事にする
- ・舟輿：舟や車

○剣舞

- ・旦日：翌朝 ・小人：つまらない人 ・卻(げき)：仲違い
- ・為人不忍(人と為り忍びず)：人柄として残忍になりきれない

○頭髮上指す

- ・ 同命(命を同じくす)：運命を同じにする
- ・ 夫(それ)：そもそも
- ・ 故(ことさらに)：わざわざ
- ・ 細説：つまらない人の言葉
- ・ 須臾：短時間
- ・ 踞(ひざまづく)：片膝を立て身構える
- ・ 虎狼之心：虎や狼のような残忍な心
- ・ 封侯：領地を与える
- ・ 窃(今回の文章では)：失礼ながら
- ・ 於是：そこで

○四面楚歌

- ・ 忼慨：気持ちが高ぶる

3 各文章のざっくりした流れ

○小国寡民

小さくて人も少ない国では、優れた才能も用いさせず命を大切にさせ遠くへ行かせない。船や車があっても乗ることはないし鎧や武器があっても並べることはない。民に昔のように再び縄を結んで使わせ、食事や服、住居、風俗を楽しませる。隣の国が互いに見え鶏や犬の鳴き声が互いに聞こえるほど近くても民は年老いて死に至るまで行き来することはない。

○剣舞

沛公が項羽より先に咸陽を打ち取った。←項羽激怒

↓仲直りしようやの会(鴻門の会)

沛公「私と項羽は一緒に戦った。けど思いもせーへんかったけど、先に秦を破ることできたし、再び項羽にお会いすることができるとは。つまらん告げ口があって、項羽と私に仲違いさせようとしてる」

項羽「曹無傷の告げ口だよ。そうじゃなかったら沛公を攻撃するようなことはない。」

↓仲直りして宴を開く

色んな人がおる。范増は項羽に沛公殺そうやって目配せ→項羽無視

范増は項莊に頼む。「項羽は残忍に為りきれないからお前が剣舞に乗じて殺せ。そうしないとお前の一族はみんな沛公に捕虜にされてしまうぞ」

項莊宴会に入って色々して言う「項羽と沛公は戦いの惨禍にあって楽しむこともない。だから剣舞させてください」→項羽「ok」

項莊剣舞しながら沛公狙う、項伯も剣舞しつつ守る

○頭髮上指す

張良が樊噲に会いに行く。

樊噲「どんな感じ？」張良「とても危ない。項莊が剣舞しながら沛公殺そうとしてる。」

樊噲「それやばいな。沛公と運命同じにしたい。」

↓門番を押し倒して宴会に侵入、項羽を睨みつける

項羽「誰？」張良「沛公の護衛の人樊噲です。」

項羽「勇ましいな、お酒あげる」樊噲飲む

項羽豚肉もあげる 樊噲食べる

項羽「いさましいなあまだ飲めるか？」

樊噲「死ぬことすら避けないんで飲むのを辞めるほどでない。秦の王は残任で数え切れないほど人を殺して数え切れないほど人を処刑している。それで人々は秦王に背いた。懷王が一番に咸陽に入った人は王様になれるといていた。沛公は先に入ったけれども少しも財宝を自分のものにしようとしなかった。軍を並べて項羽が来るのをまっていた。わざわざ兵士を派遣して関を守らせたのは他の盗賊と非常事態に備えたから。このように苦勞して功績の高い沛公ですが今だ領地を与えてもらえていない。なのにつまらない告げ口を聞いて項羽を処罰しようというのならそれは秦の二の舞いであり同じ様になってしまう。項羽のためにも失礼ながら賛成しかねる。」

項羽何も答えられず「座れ」

樊噲張良の横に座ってしばらくし、沛公がトイレに行くときに一緒に外に出る。

○四面楚歌

項羽追い詰められてピンチ。周りからも故郷の歌が聞こえてきてびっくり。裏切られた？

項羽「漢はもう楚をとったのか。なんと楚の人が多いのか」

項羽夜宴開いて別れの酒。女と馬がいる。項羽気持ちが高ぶり詩を作った

詩の内容

力も強く気力もある。しかし運がなくてこの様になってしまった。馬もあるかないのはどうしたらいいのか、どうにもできない。女をどうしたらいいのか、どうしてやることもできない。

何度か歌っているうちに女も一緒に歌う。項羽とても泣いた。側近たちも皆泣いて、誰も顔を上げ見るができなかった。

4 各文章の重要ポイント

○小国寡民

縄を結んで使わせる：古来の縄の記号的な使い方を真似させる。

其の〇〇→自国の〇〇

相往来せず：自国に満足しているため他国に行こうと思わない

知識や欲求は争いを生むため技術が進歩していないような時代の生活に立ち返ろうとする無為自然の考えに基づくもの。

○剣舞

沛公は自分を臣、項羽を將軍と呼んでいる→敬意を払っている

沛公が不自意だったのは

- ・項羽より先に秦を破ることができたこと
- ・ふたたび項羽にお会いすることができたこと

范増が項羽に示したこと→沛公を殺せということ

しかし、項羽は応じない→沛公を許したから殺すつもりはない。

○頭髮上指す

樊噲の発言の要旨

→秦王は残忍すぎて民たちに背かれた。沛公は咸陽制服しようとしなかったし項羽のためにまっていた。苦勞してこんな功績の高い沛公であるが領地をもらう褒美もない。それなのにつまらない告げ口を聞いて誅殺しようなど秦と同じだからやめてね。

○四面楚歌

周りから楚の歌が聞こえる→故郷の楚の人々がこんなにも多いのか、楚はすでに漢に手に入れたのか。

詩の内容

詩の形→七言古詩、換韻が行われている

項羽のこの歌の心情

- ・自分が負けたのは実力不足ではなく運が悪かったのだという自負心
- ・愛する女性や愛馬をどうしてやることもできないことへの深い嘆き

莫能仰視→側近たちは項羽の昔の勢いを知っているだけに絶望に涙を流す項王の姿は顔を上げてみることをできないほどいたたまれない。